令 和 ３ 年 ６ 月 30 日

第 148 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では、2020 年 12 月以降は活発な噴火活動が続いていましたが、2021 年５月に入り低下しました。しかし、火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、４月下旬以降はやや減少しているものの、2020 年９月下旬以降概ね多い状態で推移しています。GNSS 連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す地盤変動が続いています。姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部では長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態と考えられることや、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の多い状態が続いていることから、南岳山頂火口を中心に、噴火活動が再び活発化する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

口永良部島

新岳火口では、2020 年８月 30 日以降、噴火は観測されていません。噴煙の高さは低い状態で経過しています。地盤変動は沈降・収縮を示していることから、地下への新たなマグマの蓄積はみられません。また、熱活動は低い状態で、地震活動は低下傾向であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ないことから、火山活動は低下しつつありますが、引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口では、活発な噴火活動が続いています。2020 年 12 月及び 2021 年３月に短期的な噴火活動のさらなる活発化がみられました。また、６月にも活発化しています。2020 年 12 月及び 2021 年３月の活動に先行して傾斜計で西上がりの変化が観測され、活発化に伴い西下がりの変化が観測されました。この変化は諏訪之瀬島西側のやや深部から御岳火口直下へのマグマの上昇を示唆していると考えられます。一方で周辺海域のＡ型地震は少ない状態であることから、やや深部のマグマだまりへの多量のマグマの蓄積は進行していないと考えられます。

諏訪之瀬島では、引き続き地震活動、熱活動が認められ、長期的に噴火を繰り返していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

西之島

上空や海上からの観測及び気象衛星ひまわりの観測では、2020 年９月以降、噴火は確認されていません。また、西之島付近の地表面温度も低下し、2020 年８月以降は周囲とほとんど変わらない状態となっています。西之島では、火山活動に明らかな低下が認められていますが、噴気が時々観測されており、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中

浅間山

2020 年６月以降、火山活動に高まりがみられていましたが、2021 年１月頃には火山ガス

（二酸化硫黄）放出量や火口直下を震源とする地震は減少し、火山活動は低下しました。３月中旬頃から火山ガス（二酸化硫黄）放出量や火口直下を震源とする火山性地震が増加し、浅間山西側での膨張を示すと考えられる地殻変動がみられ、再び火山活動が高まりました。その後、火山性地震や火山ガス（二酸化硫黄）放出量は減少傾向、地殻変動は概ね鈍化傾向にありますが、火山活動が高まる前の３月上旬以前の状態には戻っていません。

このように、火山活動が低下傾向ですが、浅間山はこれまでも活動の盛衰を繰り返しており、再び火山活動が高まる可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

薩摩硫黄島

硫黄岳では、2020 年 10 月６日に発生したごく小規模な噴火以降、噴火は発生していません。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は１日あたり 1,000 トン前後の状態が継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。長期的には熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は 2017 年秋頃に停滞し、その後も膨張した状態が現在も維持されています。さらに、ここ数年は地震の一時的な増加、微動発生や地震増加と同期した傾斜変動、62-2 火口及びその周辺での噴煙・噴気の増加や温度上昇、微弱な火映が観測されるなど、浅部の活動は活発な状態が継続していますので、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

有珠山

３月９日から 10 日にかけて、山頂火口原のやや深い領域（深さ約２～４km 付近）を震源とする地震が一時的に増加し、同時にわずかな傾斜変動も観測されました。しかし、その後は過去の噴火前に観測されたような加速度的な地震増加には至りませんでした。

それ以外の期間の地震回数は少ない状態で経過しました。山頂火口原の噴気活動は低調で、その他の観測データにも特段の変化はみられず、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

草津白根山

草津白根山では、2014年や2018年に湯釜付近浅部への火山性流体の著しい供給の増加によると考えられる火山性地震の活発化と浅部の膨張などが観測され、2018年には本白根山で水蒸気噴火が発生しました。広域の地殻変動観測によると、2014年から2015年頃にかけて急激な変動が起こり、しばらく停滞した後、2018年頃から緩やかな変動が継続しているとみられます。

このように草津白根山の火山活動は、短期的には活動の消長があるものの、中長期的には活発な状態が継続していると考えられ、今後も火山活動の推移に十分注意が必要です。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近では、地震活動は低調な状態が続き、傾斜計にも明瞭な変動が認められないなど、2018年４月に活発化した浅部の火山活動は概ね低下しています。しかし、地震活動は2018年４月の活発化前に比べて高い状態が続いており、湯釜湖水の成分分析からは

湯釜への高温の火山性流体の供給に低下傾向が認められないなど、湯釜付近の浅部の熱水活動は継続していると考えられます。引き続き、火山活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

本白根山

鏡池北火口付近の地震は2018年12月以降少ない状態で、噴気も認められておらず、火山活動は静穏な状態で経過しています。なお、逢ノ峰付近では、以前と同様に時々地震が発生しており、引き続き今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

阿蘇山

中岳第一火口では、2020年６月下旬以降、噴火は観測されていません。火山性微動の振幅は小さな状態で経過していましたが、５月２日から９日及び６月18日に一時的に増大しました。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は少ない状態です。深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線では2020年７月頃から縮みの傾向が認められています。

深部のマグマだまりへのマグマの蓄積の進行はみられていませんが、火口浅部の活動に一時的な活動の高まりは認められますので、今後も火口内では、土砂や火山灰が噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

霧島山

広域のGNSS連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは2019年２月以降停滞しています。霧島山深部には、これまでに多量のマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移には注意が必要です。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018年４月27日以降、噴火は発生していません。噴気活動は概ね活発な状態が続いています。火山性地震は、2020年５月以降、わずかに増加した状態が継続しています。2020年５月頃から浅部の膨張を示すわずかな地殻変動が認められていましたが、2021年２月以降は停滞しています。

硫黄山では現時点で噴火の兆候は認められませんが、今後、火山性地震の増加や再び浅部の膨張を示す地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

大幡池

火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

新燃岳

新燃岳では2018年６月28日以降、噴火は発生していません。新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は2021年２月以降少ない状態となっています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は2020年12月以降少ない状態となっています。地熱域、噴気活動の状況に変化は認められません。また、GNSS連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示

すと考えられる基線の伸びは停滞しています。
　これらのことから、現在のところ噴火の兆候は認められませんが、今後、火山性地震の増加や地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性があります。
【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

御鉢
　御鉢の火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。
【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．北海道地方

①　アトサヌプリ

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　雌阿寒岳

2020 年７月に活発化した赤沼火口及び北西斜面 06 噴気孔列の噴気活動は、12 月以降低下傾向が続き、また地震活動も 2020 年９月末以降静穏な状態が継続しています。火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

・2020 年７月下旬に噴気活動が活発化した赤沼火口及び北西斜面 06 噴気孔列の噴気活動は、12 月以降低下傾向が続いています。
・ポンマチネシリ火口付近の地震回数は、2018 年以降増加を繰り返していましたが、2020 年９月末以降は少ない状態が続いています。
・中マチネシリ火口付近の地震回数は、2014 年以前と比べるとやや多い状態が続いています。
・ポンマチネシリ 96-1 火口南側の全磁力は、2020 年１月以降わずかな減少がみられています。

③　大雪山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は 2017 年秋頃に停滞し、その後も膨張した状態が現在も維持されています。さらに、ここ数年は地震の一時的な増加、微動発生や地震増加と同期した傾斜変動、62-2 火口及びその周辺での噴煙・噴気の増加や温度上昇、微弱な火映が観測されるなど、浅部の活動は活発な状態が継続していますので、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

・62-2 火口の噴煙は 2018 年頃からやや高い状態が継続しており、４月には昨年６月と同程度の微弱な火映が観測され、火口内は高温の状態が継続していると推定されます。
・大正火口の噴煙は 2010 年頃から、振子沢噴気孔群の噴気は 2018 年頃からやや高い状態が継続しています。
・山体浅部では、2006 年頃から 2017 年秋頃にかけて膨張を示す地殻変動が観測されていました。それ以降、わずかな収縮を示す変動が観測されましたが、膨張した状態を現在も維持しています。
・2018 年５月下旬以降、62-2 火口付近浅部では地震の一時的な増加や微動が時々観測されており、微動発生や地震増加に同期したわずかな傾斜変動も引き続き観測されています。
・深部へのマグマの供給によると考えられる地殻変動は認められません。

⑤　樽前山

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥　倶多楽

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦　有珠山

３月９日から10日にかけて、山頂火口原のやや深い領域（深さ約２～４km付近）を震源とする地震が一時的に増加し、同時にわずかな傾斜変動も観測されました。しかし、その後は過去の噴火前に観測されたような加速度的な地震増加には至りませんでした。

それ以外の期間の地震回数は少ない状態で経過しました。山頂火口原の噴気活動は低調で、その他の観測データにも特段の変化はみられず、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

・３月９日から10日にかけて、山頂火口原直下の深さ約２～４km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。地震増加と同時にわずかな傾斜変動が観測されました。
・山頂火口原直下の浅い領域（深さ約０～１km）に発生する地震の回数は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。
・山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上100mで、噴気活動は低調な状態です。
・GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

⑧　北海道駒ヶ岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　恵山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

２．東北地方

①　岩木山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　八甲田山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　十和田

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　秋田焼山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　岩手山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　秋田駒ヶ岳

山頂付近では、2017年９月以降、火山性地震の発生頻度が緩やかに増加しています。また、女岳付近では地熱活動も継続的に認められており、中長期的な火山活動の活発化に留意が必要です。

⑦　鳥海山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　栗駒山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　蔵王山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑩　吾妻山

2020 年３月頃からみられた吾妻山深部の膨張を示す変化は、緩やかに継続していますが、その他の観測データを含めて火山活動の活発化を示す変化は認められません。

大穴火口周辺では熱活動が継続しており、噴出現象が突発的に発生する可能性があることに留意が必要です。

⑪　安達太良山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　磐梯山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　日光白根山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　草津白根山

草津白根山では、2014年や2018年に湯釜付近浅部への火山性流体の著しい供給の増加によると考えられる火山性地震の活発化と浅部の膨張などが観測され、2018年には本白根山で水蒸気噴火が発生しました。広域の地殻変動観測によると、2014年から2015年頃にかけて急激な変動が起こり、しばらく停滞した後、2018年頃から緩やかな変動が継続しているとみられます。

このように草津白根山の火山活動は、短期的には活動の消長があるものの、中長期的には活発な状態が継続していると考えられ、今後も火山活動の推移に十分注意が必要です。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近では、地震活動は低調な状態が続き、傾斜計にも明瞭な変動が認められないなど、2018年４月に活発化した浅部の火山活動は概ね低下しています。しかし、地震活動は2018年４月の活発化前に比べて高い状態が続いており、湯釜湖水の成分分析からは湯釜への高温の火山性流体の供給に低下傾向が認められないなど、湯釜付近の浅部の熱水活動は継続していると考えられます。引き続き、火山活動の推移に注意する必要があります。

- 湯釜付近の浅部の火山性地震は、概ね低調な状態で経過しています。火山性微動は 2020 年 12 月以降観測されていません。
- 2020 年 12 月下旬頃から 2021 年１月にかけて、湯釜付近の浅部の膨張を示すわずかな傾斜変動が観測されましたが、その後明瞭な変動は認められません。
- GNSS 連続観測やだいち２号による観測では、湯釜付近の浅部の膨張を示す変動は認められていません。
- 白根山の地表面の温度分布に顕著な変化は認められません。
- 一方で、湯釜付近の浅部の火山性地震回数は、2018 年４月の活発化前の状態には減少していません。

・湯釜北側噴気地帯の火山ガスの硫化水素濃度及び濃度比（二酸化炭素/硫化水素）や、湯釜湖水の成分分析では、湯釜付近の浅部への高温の火山性流体の供給に低下傾向は認められません。
・全磁力連続観測では、2018 年４月頃から水釜付近の地下の温度上昇を示唆する変化が継続しています。

本白根山

鏡池北火口付近の地震は2018年12月以降少ない状態で、噴気も認められておらず、火山活動は静穏な状態で経過しています。なお、逢ノ峰付近では、以前と同様に時々地震が発生しており、引き続き今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

・2018年１月23日の噴火に伴い発生した、鏡池北火口付近の浅部を震源とするごく微小な地震は徐々に減少し、2018年12月以降は少ない状態で経過しています。なお、逢ノ峰付近を震源とする地震は１月下旬から３月上旬にわずかに増加しましたが、概ね少ない状態で経過しています。
・噴火発生後、鏡池北火口の北側の火口列から、ごく弱い噴気が時折確認されていましたが、2018年２月22日を最後に観測されていません。
・GNSS連続観測では、一部の基線で2018年１月の噴火後の収縮によると考えられる変動がみられていましたが、2020年１月以降停滞しています。また、だいち２号で観測されていた本白根山周辺の収縮とみられる変動は、現在は認められません。

④　浅間山

2020 年６月以降、火山活動に高まりがみられていましたが、2021 年１月頃には火山ガス（二酸化硫黄）放出量や火口直下を震源とする地震は減少し、火山活動は低下しました。３月中旬頃から火山ガス（二酸化硫黄）放出量や火口直下を震源とする火山性地震が増加し、浅間山西側での膨張を示すと考えられる地殻変動がみられ、再び火山活動が高まりました。その後、火山性地震や火山ガス（二酸化硫黄）放出量は減少傾向、地殻変動は概ね鈍化傾向にありますが、火山活動が高まる前の３月上旬以前の状態には戻っていません。

このように、火山活動が低下傾向ですが、浅間山はこれまでも活動の盛衰を繰り返しており、再び火山活動が高まる可能性があります。

・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は 1 月から 90～200 トンで推移していましたが、３月 22 日に 800 トンと、１月、２月と比べて多い状態となり、その後、４月下旬までは 500～1800 トンで推移しました。５月に入り 500 トン未満で推移していますが、火山活動が高まる前の３月上旬以前の状態には戻っていません。
・火映は観測されていません。
・全磁力観測によると、火口下の熱消磁の可能性を示すわずかな変化が認められます。
・山体浅部を震源とする火山性地震は３月 20 日以降増加し、23 日にピークを迎えた後は、増減を繰り返しながら徐々に減少傾向になりましたが、火山活動が高まる前の３月上旬以前の状態には戻っていません。浅間山西側の火山性地震の活動は３月以降、発生頻度に高まりがみられましたが、５月に入り減少傾向になりました。火山性微動は、時々発生しています。
・光波測距観測では、基線長の短縮傾向は認められません。
・３月中旬頃から浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められました。４月下旬頃にはほぼ停滞したものの、５月中旬頃より再びわずかな変動がみられています。
・GNSS 連続観測では、浅間山の西側を挟む基線の伸びは停滞していますが、2020 年６月以前の変化傾向には戻っていません。

⑤　新潟焼山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　弥陀ヶ原

地獄谷周辺の地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動は観測されていませんが、地獄谷では、2012 年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇などがみられており、熱活動が活発な状態が続いています。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　焼岳

山頂付近の微小な地震活動が継続して発生しており、また、緩やかな膨張が続いているとみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑧　乗鞍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　御嶽山

2014 年９月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴気活動や山頂直下付近の地震活動は長期的な低下傾向が続いており、2014 年噴火口直下浅部が変動源とみられる山体の収縮も継続しています。

現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴気活動が活発な一部の噴気孔では、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。また、水準測量では一部の路線で隆起がみられていますので、今後の火山活動に留意してください。

⑩　白山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　富士山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　箱根山

地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動は観測されていません。ただし、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いているため、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

⑬　伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭　伊豆大島

三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調で、火山性地震は少ない状態で経過しており、ただちに噴火が発生する兆候は認められません。

長期的に継続していた山体の膨張は、2018 年頃からほぼ停滞していますが、これまでの膨張により地下深部にマグマが供給された状態にあり、火山活動はやや高まった状態にあると考えられますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

なお、短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。

⑮　新島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯　神津島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰　三宅島

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も極めて少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は続いており、山体浅部の膨張を示すと考えられる村営牧場南―雄山北東間で伸びの傾向が2019年４月頃からみられるようになりました。火山活動は徐々に高まりつつあると考えられます。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱　八丈島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲　青ヶ島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳　西之島

上空や海上からの観測及び気象衛星ひまわりの観測では、2020 年９月以降、噴火は確認されていません。また、西之島付近の地表面温度も低下し、2020 年８月以降は周囲とほとんど変わらない状態となっています。西之島では、火山活動に明らかな低下が認められていますが、噴気が時々観測されており、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

・気象衛星ひまわりの観測では、西之島付近の地表面温度も低下し、2020 年８月以降は周囲とほとんど変わらない状態となっています。
・上空および海上からの観測では 2020 年８月 19 日以降、また気象衛星ひまわりでは 2020 年８月 29 日以降噴火は確認されていません。
・2020 年９月以降の上空および海上からの観測では、山頂火口からの噴気活動が継続し、山頂火口内や火砕丘北側には高温領域が確認されています。また、沿岸海域には変色水が確認されています。
・だいち２号の観測では、2020 年９月以降、火砕丘の周辺の広範囲で衛星から遠ざかる変動が続いていましたが、５月以降、認められなくなりました。

㉑　硫黄島

地殻変動や地震活動、噴気の状態など火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

㉒　福徳岡ノ場

長期間にわたり変色水が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されます。

４．九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

火山性地震は少ない状態で経過しましたが、B 型地震が時々発生しています。その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

②　九重山

火山性地震は少ない状態であり、噴気地帯の状況にも特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には、硫黄山付近の噴気地帯地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられており、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

③　阿蘇山

中岳第一火口では、2020 年６月下旬以降、噴火は観測されていません。火山性微動の振幅は小さな状態で経過していましたが、５月２日から９日及び６月 18 日に一時的に増大しました。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は少ない状態です。深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線では2020年７月頃から縮みの傾向が認められています。

深部のマグマだまりへのマグマの蓄積の進行はみられていませんが、火口浅部の活動に一時的な活動の高まりは認められますので、今後も火口内では、土砂や火山灰が噴出する可能性があります。

・中岳第一火口では 2020 年６月下旬以降、噴火は観測されていません。
・火山性微動の振幅は、小さな状態で経過していましたが５月２日から９日かけて大きな状態となりました。微動振幅の増大に対応するような地殻変動は観測されていません。
・６月 18 日に一時的に火山性微動の振幅がやや大きな状態となりました。20 日に実施した現地調査で第一火口内に陥没孔が確認されました。陥没孔周辺に噴出物は認められませんでした。この陥没孔は 18 日に形成されたと考えられます。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、概ね少ない状態で経過しましたが、５月 11 日に一時的に増加しました。
・火山性地震、孤立型微動は、概ね多い状態で経過しました。
・中岳第一火口では、火口底の温度が２月から３月にかけて一時的に高くなり、２月には硫黄の燃焼が認められました。湯だまりは認められません。
・全磁力観測では火口浅部の温度低下を示唆する帯磁傾向がみられていましたが、2021 年４月頃から消磁傾向に変化し、５月末頃からその変化は停滞しています。
・GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2020 年７月頃から縮みの傾向がみられます。

④　雲仙岳

GNSS 連続観測では山体西部のマグマだまりに対応する変動は認められておらず、火山活動は概ね静穏に経過していますが、2010 年頃から普賢岳から平成新山付近の深さ概ね１～２km の火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

⑤　霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞しています。霧島山深部には、これまでに多量のマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移には注意が必要です。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018年４月27日以降、噴火は発生していません。噴気活動は概ね活発な状態が続いています。火山性地震は、2020年５月以降、わずかに増加した状態が継続しています。2020年５月頃から浅部の膨張を示すわずかな地殻変動が認められてい

ましたが、2021年２月以降は停滞しています。

硫黄山では現時点で噴火の兆候は認められませんが、今後、火山性地震の増加や再び浅部の膨張を示す地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性があります。

・硫黄山南側の噴気孔では活発な噴気活動が継続しています。2021 年１月頃から２月頃にかけて、一時的に噴気や噴湯の勢いがやや強くなりました。同時期にはマグマ起源と考えられる成分の一時的な増加も確認されています。
・硫黄山の西側 500m付近の噴気活動は３月以降、噴気量は減少しています。４月頃から湯だまりが間欠的に認められており、マグマ起源と考えられる成分の増加も認められています。
・地熱域の放熱率は 2020 年 10 月頃から３月頃にかけて一時的に増加しました。
・火山性地震は 2020 年５月以降わずかに増加した状態が続いていますが、さらなる増加は認められず、概ね少ない状態で経過しています。
・全磁力観測では、消磁傾向が継続し、特に硫黄山の南側の観測点で 2020 年５月頃から明瞭になっています。
・GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の一部の基線において、2020 年５月頃から山体浅部の膨張を示すわずかな伸びが認められていましたが、2021 年２月以降は停滞しています。
・水準測量からは、硫黄山の地下 600～700m にあると推定される圧力源の膨張は 2018 年 12 月以降ほぼ停滞状態にありますが、2019 年 11 月から 2021 年３月では硫黄山西側を中心として局所的に隆起が確認されました。

大幡池

火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

新燃岳

新燃岳では2018年６月28日以降、噴火は発生していません。新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は2021年２月以降少ない状態となっています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は2020年12月以降少ない状態となっています。地熱域、噴気活動の状況に変化は認められません。また、GNSS連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは停滞しています。

これらのことから、現在のところ噴火の兆候は認められませんが、今後、火山性地震の増加や地殻変動等が認められた場合には、火山活動が活発化する可能性があります。

・2020 年２月以降火口西側斜面の割れ目付近で地熱域の拡大と噴気活動の再開が確認されていますが、その後変化は認められません。また、火口内の地熱域や噴気活動にも変化は認められません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量が 2020 年４月から増加していましたが、2020 年 12 月以降は少ない状態となっています。
・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は 2019 年 11 月頃から増減を繰り返していますが、2021 年２月以降は少ない状態となっています。
・傾斜計では山体膨張を示す変化は認められていません。
・GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞しています。

御鉢

御鉢の火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

⑥　桜島

南岳山頂火口では、2020年12月以降は活発な噴火活動が続いていましたが、2021年５月に入り低下しました。しかし、火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、４月下旬以降はやや減少しているものの、2020年９月下旬以降概ね多い状態で推移しています。GNSS連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す地盤変動が続いています。姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部では長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態と考えられることや、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の多い状態が続いていることから、南岳山頂火口を中心に、噴火活動が再び活発化する可能性があります。

・南岳山頂火口の噴火活動は続いていますが、爆発回数は12月18回、１月18回、２月11回、３月14回、４月34回、５月６回と５月に減少しました。
・鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した桜島の火山灰月別噴出量は、12月９万トン、１月10万トン、２月９万トン、３月11万トン、４月12万トンと少ない状態で経過しました。
・南岳山頂火口では、2020年９月上旬以降、夜間に火映を観測しています。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は2020年８月以降増加傾向がみられ、12月1,300～2,200トン、１月1,500～5,000トン、２月1,100～4,300トン、３月1,800～2,900トン、４月1,800～2,400トン、５月1,300トンと概ね多い状態で推移していますが、４月下旬以降はやや減少しています。
・桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、長期的な山体膨張を示す変化は観測されていません。
・GNSS連続観測では、桜島島内の基線では山体の隆起・膨張を示す変化は観測されていません。一方、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す一部の基線では、引き続き伸びが認められます。姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部では、長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態と考えられます。
・昭和火口では2018年４月４日以降、ごく小規模な噴火も発生していません。

⑦　薩摩硫黄島

硫黄岳では、2020年10月６日に発生したごく小規模な噴火以降、噴火は発生していません。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は１日あたり1,000トン前後の状態が継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。長期的には熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

・硫黄岳では引き続き火映を観測し、硫黄岳火口で時々1,000ｍを超える噴煙活動が続いています。硫黄岳周辺の地熱域の状況に特段の変化は認められません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は１日あたり300～1,900トンでした。
・硫黄岳付近の火山性地震は少ない状態で経過しています。
・GNSS連続観測では、島内の一部の基線で、2020年７月頃からみられていたわずかな縮みの傾向は認められなくなりました。

⑧　口永良部島

新岳火口では、2020年８月30日以降、噴火は観測されていません。噴煙の高さは低い状態で経過しています。地盤変動は沈降・収縮を示していることから、地下への新たなマグマの蓄積はみられません。また、熱活動は低い状態で、地震活動は低下傾向であり、

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ないことから、火山活動は低下しつつありますが、引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2020 年５月頃から減少傾向となっており、2021 年１月からは１日あたり概ね 100 トン未満と少ない状態となっていますが、2014 年噴火の前と同程度の放出が継続しています。
・新岳火口直下の火山性地震は、2021 年２月と４月には１日あたり数十回程度と増加したこともありますが、2020 年８月から 10 月の地震活動に比べると低下しています。新岳西側山麓付近の火山性地震は 2020 年６月以降発生していません。
・新岳火口西側割れ目付近の地熱域は 2020 年５月頃から温度が低下した状態が続いています。また、噴煙の高さも低いことから、熱活動は低い状態と考えられます。火映は 2020 年６月 25 日以降、観測されていません。
・GNSS 連続観測では、2019 年 10 月頃からの島内の基線の伸びは、2021 年２月頃から縮みに転じています。
・2021 年５月に実施した水準測量では、2020 年 12 月に比べて、わずかな沈降が認められました。

⑨　諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口では、活発な噴火活動が続いています。2020 年 12 月及び 2021 年３月に短期的な噴火活動のさらなる活発化がみられました。また、６月にも活発化しています。2020 年 12 月及び 2021 年３月の活動に先行して傾斜計で西上がりの変化が観測され、活発化に伴い西下がりの変化が観測されました。この変化は諏訪之瀬島西側のやや深部から御岳火口直下へのマグマの上昇を示唆していると考えられます。一方で周辺海域のＡ型地震は少ない状態であることから、やや深部のマグマだまりへの多量のマグマの蓄積は進行していないと考えられます。

諏訪之瀬島では、引き続き地震活動、熱活動が認められ、長期的に噴火を繰り返していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

・御岳火口では、噴火活動が続いており、2020 年 10 月下旬以降は、活発化傾向がみられます。
・噴火活動が活発化した 2020 年 12 月下旬の活動では、爆発により弾道を描いて飛散する大きな噴石が最大で火口から約 1.3km に達しました。また、３月上旬及び下旬の活発化時には火口から約１km まで達する大きな噴石を観測しました。６月 21 日及び 23 日には火口から約 900ｍまで達する大きな噴石を観測しました。これらの噴火活動による噴煙は最高で火口縁上 1,800ｍまで上がりました。
・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測しました。
・火山性地震は増減を繰り返しています。Ｂ型地震は噴火活動の活発化に伴い増加しました。周辺海域を震源とするＡ型地震は少ない状態で経過しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり概ね 1,000 トン前後と多い状態で経過しました。
・2020 年 12 月及び 2021 年３月にみられた短期的な噴火活動の活発化時に、活発化に先行して傾斜計で西上がりの変化が観測され、活発化に伴い西下がりの変化が観測されました。
・GNSS 連続観測では、島内の基線で 2019 年 12 月頃からわずかな伸びがみられていましたが、2020 年９月頃から 2021 年１月頃にかけて停滞しています。
・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約４km）では、時々降灰や鳴動が確認されました。

その他の活火山の火山活動評価

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況が続いています。

１．北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

２．東北地方

恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、男体山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

４．中国・九州地方・南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

【参考】主な活火山の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第147回（令和２年12月23日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び 発表年月日
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年12月21日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	大雪山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年３月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	十勝岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年２月24日噴火予報（レベル１、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	倶多楽	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年10月１日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	有珠山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2008年６月９日噴火予報（レベル１、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	恵山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
東北地方	岩木山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年７月26日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	八甲田山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	十和田	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2013年７月25日噴火予報（レベル１、平常）
	岩手山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年10月27日噴火予報（レベル１、平常）
	鳥海山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月27日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	栗駒山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	蔵王山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	吾妻山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年６月17日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	安達太良山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第147回（令和２年12月23日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び 発表年月日
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	日光白根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年12月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	草津白根山	草津白根山（白根山（湯釜付近）） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年11月27日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
		草津白根山（本白根山） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
		草津白根山※ 噴火予報（活火山であることに留意） ※白根山（湯釜付近）及び本白根山を除く草津白根山	2018年11月27日噴火予報（活火山であることに留意）
	浅間山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 山頂火口から概ね２ｋｍの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。	2020年６月25日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年２月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2021年３月23日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	弥陀ヶ原	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	焼岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年３月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	御嶽山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2017年８月21日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	白山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年９月２日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年10月７日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	神津島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	三宅島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年６月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	八丈島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	青ヶ島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	西之島	火口周辺警報（入山危険） 山頂火口から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2020年12月18日火口周辺警報（入山危険）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険） 従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。	2007年12月１日火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒） 周辺海域では海底噴火に警戒してください。	2007年12月１日噴火警報（周辺海域警戒）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第147回（令和２年12月23日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び 発表年月日
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2020年８月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2021年５月２日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年６月９日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
		霧島山（大幡池） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2021年３月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
		霧島山（新燃岳） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2020年12月11日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2020年12月25日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年３月１日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
		霧島山（御鉢） 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月15日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
		霧島山※ 噴火予報（活火山であることに留意） ※えびの高原（硫黄山）周辺、大幡池、新燃岳及び御鉢を除く霧島山	2016年12月６日噴火予報（活火山であることに留意）
	桜島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。	2016年２月５日火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2021年４月25日火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2021年４月25日火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 硫黄岳火口中心から概ね 0.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2019年11月２日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年３月８日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 新岳火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。	2019年10月28日火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2021年１月19日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年２月28日火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 御岳（おたけ）火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2007年12月１日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2020年12月28日火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2021年１月14日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年３月31日火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2021年４月５日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2021年６月23日火口周辺警報（レベル３、入山規制）

この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。
また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。